

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4072300421
法人名	有限会社ケアビット
事業所名	グループホーム陽だまりの家 (ユニット名 コスモス )
所在地	福岡県八女市高塚212番地
自己評価作成日	平成27年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成27年8月4日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎月、音楽療法やアロマクラフト作りの講師を招きみなさんが参加していただくことで一人ひとりが楽しみを持って生活できるように支援をしている。また、地域の「ふれあいサロン」にも毎月参加をし、地域の方々とその交流を図り、地域の方々からも利用者の方々へ気遣いをいただき、お互いに良い関係作りが出来ている。その地域の方々も、事業所の行事があるときにかけつけていただき色々なご協力をいただいている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

八女市の中心にあり、世代交流館「共生の森」に隣接し、小規模多機能型居宅介護事業所、住宅型有料老人ホームと同一敷地にある。オレンジを基調に白い壁、緑の庭が訪れる人の心を和ませてくれる。「尊敬」「安心」「感謝」「共生」「交流」をキーワードに運営方針、スタッフ実行目標がある。ホーム長、管理者、職員は、利用者に尊敬をもって接し、家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切に、一人ひとりの自立支援に向けて取り組んでいる。職員の声かけに表情が和らぐ利用者やリビングで職員と一緒に笑顔でおしゃべりしている利用者など、穏やかな日常を垣間見ることができた。12年目を迎えて地域と共に歩み、地域の高齢者の在宅生活を支える拠点として期待される事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議やユニット会議で唱和し、職員全員でリネンの共有に努めており、その理念を実践するために事業計画を定めている	「尊厳」「安心」「感謝」「共生」「交流」の理念の下、利用者が、ここに来て良かったと思えるように、職員一人ひとりが日々の言葉かけや態度などを振り返り、理念がケアに反映されているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや小学校行事の見学(運動会や学習発表会など)に参加し交流を図っている	毎月行われる高塚ふれあいサロンや道路愛護、高塚まつりに利用者数名と一緒に参加している。また、地域の方が気軽に立ち寄っていただけるよう陽だまりカフェを開催し、家族より頂いた不用品やアロマクラフトの販売など行っている。今年は秋祭りを計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現時点ではまだ実践できていないが地域のサロンを利用し、認知症の方々の支援方法や介護保健とはどういうものかを紙芝居などを使いわかりやすく案内をするという予定をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の状況、結果報告や御家族、行政からの意見などを参考にサービス向上に努めている	利用者、家族代表、民生委員、市職員、包括支援センター職員の参加で奇数月に行われている。利用者の状況、ホームの活動報告を行うとともに、当日ホームで行った心肺蘇生訓練、避難訓練、音楽療法などを見学して頂き、参加者から意見をもらってサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には介護保険課と地域包括支援センターの職員が参加し事業所の情報などを伝えており、日常的に介護保険上の相談や部屋の空き情報を伝えるシステムもあり協力関係は出来ている	市役所からは虐待事例等の入居相談がある。介護保険の更新で要支援1の認定が下りた方の相談を行い、養護老人ホームへの入居ができた事例がある。日常的に高齢者支援課や生活保護課などに相談を行い、支援をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフはセンサーマットが利用者の行動を抑制する道具となりうるものを認識し、センサーマットを使用しないで良いケアの工夫を行っているところである。また、玄関・通路等の施錠は行っていない。	身体拘束廃止委員会があり「身体拘束の定義と範囲」の説明や身体拘束禁止の対象となる具体的な行動の確認など会議や勉強会の中で全職員で取り組んでいる。30分毎の所在確認や孫からもらったGPS機能の携帯電話をお守りにして行動を見守っている。玄関は21時から8時までは防犯上の理由により施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニット会議時に身体拘束や虐待が知らず知らずのうちに行われていないか皆で話し合う機会をもっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方がおられる	パンフレットを準備し職員会議や勉強会で学んでいる。制度を利用している方もあり、職員は制度の概要、相談窓口を理解できている。制度の必要な方にはご案内したり、陽だまり新聞の介護コーナーで紹介文を載せたりしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を得ている 何か疑問などがある場合は利用後もその都度お受けしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望があればそれに応じ対応できるよう努めている	訪問時に要望などを尋ねるようにしている。ホームでの様子を知りたいという声があり希望者に連絡ノートを準備し、日々の様子を伝えている。家族の事を心配される利用者に、家族より働いている姿を見せたいとの要望があり、職員と一緒に職場に出かけた。家族会の立ち上げを検討中である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議で意見や提案を聞き、必要に応じて話し合いをして運営に反映させている	職員会議等で利用者に関する事など意見を言っている。施設長、管理者に何でも相談できる関係性ができている。定期的に職員異動があるが、事前に本人に確認があり納得の上で異動している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の資格取得を推進しており、そのための勤務調整を行ったり、日中の外部研修への参加は基本的に勤務扱いにしている。その他、個々の能力に応じ、役職や、昇給など随時検討している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	事業所には20代から60代までの幅広い職員が勤務しており、年齢、性別などで採用対象から排除するようなことはしていない。また、その方に合った勤務シフトなども考えそれぞれが働きやすい環境作りを目指している。	採用にあたっては、介護経験の有無を問わずやる気が見られる方を採用している。職員の能力、特技を活かす配置になっている。研修は勤務扱い、希望の休みも取りやすく、7月より入浴の介護者、早出、日曜祭日、正月等の手当てを付けるなど働きやすい職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重の基本となる、利用者に対する言葉づかいを認識するため「言葉づかいの適正に関する評価基準表」を使い各職員へ指導している。	利用者が自由に生活してもらえるように対応している。会議の中で認知症ケア、尊厳、人権について研修を行っている。年に1回言葉づかいチェック表で全職員確認している。管理者は職員の言動で気になる事があれば、その場で注意したり、ユニット会議の場で注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修については、なるべく受けていただくように指導、勤務調整などしており、新入職員に対しては、「育成表」を活用し、育成に取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム部会、県のグループホーム協議会に属しており、その研修参加を通じ交流する機会を作り色々な情報共有をし、質の向上を促している		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みや相談があった時は、出来るだけ本人に面談するようにしている。面談時は本人が入居についてのくらい理解されているか事前に確認し、面談時は不安感をもたれないようにしている。その上で本人の困っていることや要望等を聞くよう来ている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みや相談があった時より、家族の困っていることや不安なことを聞くようにしている。又相談時に聞いた話の内容により、他の施設やサービス利用が適していると感じた時はそのことも話しをして当ホーム入居に至らないことでも相談に乗ることで信頼関係が築けていると考える		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居前の担当ケアマネや入院中のソーシャルワーカー等より、情報収集を行い必要なケアやサービスの検討を行うことで、入居後の生活がスムーズに出来るように支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に一緒に食事をしたり、食器洗い、洗濯物たたみ、食事の配膳など共に行い一緒に生活する者としての関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個別外出や、病院受診など御家族の状況に合わせてご協力いただいている場面もあり、そのようなことにより関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの知人や近所の方などの面会があっている。	馴染みの美容室の訪問がある。新築した自宅へ連れて行ったり、お盆に自宅に送って行ったりしている。年賀状の代筆や本人への電話の取次ぎなど行い馴染みの人や場所との関係性が途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域密着型の事業であるため、利用者同士が知り合いであったり親戚であることもある。入居して久しぶりに再会できたというケースもあり、フロアで話に盛り上がることもあり、居室に尋ねて声をかけられることもあっている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、経過フォローは行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人一人の思いや意向などに常に耳を傾け、好き嫌いがいかなど本人のしたいことを出来るだけ行えるよう努めている。	利用者同士の会話や、日々接するケアの中での表情で思いを汲み取り、職員間で共有している。歌が好きだった利用者に家族が持ってこられたDVDを聞いてもらったり、生け花をしていた利用者に生け花をしてもらったりと、本人本位になるように検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント、また入居後の随時のアセスメントを通じ、把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションや様子観察の中から、一日の過ごし方、心身状態、その方の持っておられる力などの把握ができるように努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて職員間で意見交換を行い、家族の意見も聞いたうえで介護計画を作成している。また、月に1回モニタリングを行っている。	介護保険の更新時に合わせて、3ヶ月に1回ケア会議を開催して介護支援専門員が介護計画を作成している。家族の訪問時に意向を聞き取り、主治医にはケアプランの内容をもとに意見をもらっている。担当職員は毎月モニタリングを行い、利用者の状態の変化や状況、家族や本人の要望に応じて見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア会議の中での意見交換や、職員間での申し送りノートを活用し、活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズにうまく対応することが、認知症ケアのひとつだと考えている部分もあるので、色々な手段を使い柔軟に支援するようにはしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサロンへの参加、近くのスーパーへの買い出しなどの地域資源を活用している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や御家族が希望するかかりつけ医があれば継続して受診できるような支援をしている	入居時に利用者、家族の意向を伺い、多くの利用者が協力医の往診を受けている。又、在宅時からのかかりつけ医による往診や、皮膚科、歯科の往診が定期的にあっている。専門医への受診は、職員による送迎が行われており、家族への受診結果は管理者が行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックや観察などを通し、気づきや変化があれば看護師に報告し指示をもらい必要であれば受診を行うようにしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーを通じての情報収集、病院からご家族への話がある場合は同席させてもらうなどし、協働している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け御家族などと何度も話し合い、時にはドクターから説明を行ってもらいながら、いその都度方針を共有している。	入居の時に重度化や終末期に向けた説明を行い、看取りの同意書を用意している。終末期に向けたマニュアルも準備しており、職員には周知し、看取りを行っている。家族の要望があれば、泊まりも食事の提供も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。また職員会議で心肺蘇生法や、急変時の対応の仕方などの勉強会を行っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練などに地域の運営推進会議メンバーなどにも参加してもらっている	消防署の立会いで昼夜を想定して訓練を行っている。火災報知器、スプリンクラー設置し、各ユニットと事務所に消火器を設置している。非常食品や備品も用意している。災害時に備えて地域住人に協力依頼しているが万全とは言いがたい。職員連絡網を活用した訓練実施までに至っていない。	有事時に備え地域との協力体制や職員連絡網を活用した訓練内容について検討する機会を持つことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「言葉づかいチェック表」などを活用したり、勉強会を行うことで対応できるように努めている	先輩職員を手本に新しい職員も利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人のケアファイルや書類、写真などの個人情報に関わるものは家族の了解を得て使用し、事務所で保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望をまず聞き、それに沿った支援を行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方々一人ひとりのペースを大事にし、柔軟に対応を行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者で違う部分はあるが、前職が美容師の職員からカラーやパーマを本人さんが望むようにしている方もいる		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に食事準備は一緒に行っており、時には夕食会と称し、みんなで料理を作って食べる日を設けたりしている	昼食と夕食は母体の施設より準備し、朝食とおやつは事業所で準備している。週に2回ほど、利用者と一緒に手作りおやつをしており、利用者と一緒に育てた菜園で採れた野菜や果実などを使っている。又、月に1回ほどは夕食や昼食を利用者と一緒に準備することもある。職員は同じテーブルを囲んで、同じ食事を食べながら会話を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取の量、水分摂取の量など記録にとって少ない方は味をかえるなどし摂取量があがるように工夫をしている。栄養バランスについては栄養士が献立をたてている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じた口腔ケアを毎食後行っており、時には歯科医と連携の上、口腔内の清潔保持に努めている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェック表や記録などを活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、日中はすべての方がトイレで排泄が出来るように支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導を行うことでリハビリパンツから布パンツに変更になったり、失禁が少なくなったりしている事例があり、排泄の自立に向けた支援が行われている。排泄誘導時には声掛けに配慮しながらプライバシーを損ねない言葉がけを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録などを通じ、個人の排泄状況を把握し水分を多く摂っていただくなどの工夫をしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の時間帯などはあるが、その時に入らなかつたりされても時間を変えたり、日にちを変えたり柔軟に支援している	毎日午前、午後からと入浴日を設けており、利用者は週に3回入浴している。入浴を拒否される方にも無理強ひすることなく時間帯を変えたり、利用者の気分や希望に合わせた支援を行っている。浴室には浴槽が二つあり、二名で入浴できるが、仕切りを置きプライバシーにも配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて休息していただいたり、フロアの畳やソファで休息していただいたり状況などにより支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の薬一覧表を活用し、理解に努めている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的に外部からアロマクラフト作りや音楽療法の講師を招いてみなさんと一緒に過ごしてもらったり、ドライブ、散歩、音楽を聞くなどその方に合った方法を支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身内の結婚式、法事など御家族の協力を得ながら出かけられる支援は行っており、「これ食べたい」などの希望が出れば調整して出かけられるよに工夫している	月に一度は遠方への外出を予定されており、季節の花見や大牟田市石炭産業科学館、柳川雛祭りさげもん、キリンビール工場など見学をしている。天気の良い日は庭にある果実や野菜の収穫を楽しんだり、散歩に行ったりして希望に沿った外出ができるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持している方はいらっしゃり、本人の希望に応じ使える機会が持てるように努めている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思、希望を考慮し支援している。御家族へ向け年賀状を書いてもらったりしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを飾ったり、温湿度計をとりつけ温度と湿度の把握をしたり整理整頓を心がけ居心地良い空間作りを行っている	リビング兼食堂は光を多く取り入れた作りで、掃出し窓からは芝生の庭に出ることができる。又、果実や菜園があり季節感が味わえる。玄関、廊下、トイレ、浴室はバリアフリーで利用者が移動しやすいように配置され、季節の花の絵や、外出先での思い出の写真が展示されており、居心地良く過ごせる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはテーブルや椅子が置いてあるスペースと畳が敷いてあるスペースがあり、独りで過ごせるような工夫もしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時などは、自宅ですべて使っておられたものを持ち込んでいただくようお願いしており馴染みのものなどに囲まれ居心地良く過ごしていただくようにしている	畳部屋とフローリングの部屋があり、本人や家族の希望で好みの物が持ち込まれている。今まで使い慣れた鏡台やタンス、机、テレビを持参してもらい、本人が居心地良く過ごせる部屋になるように工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の部屋がわかりづらいような方には良くわかるように表札の位置や大きさを工夫したりしている		